掲載日:2017年02月09日, 面名:暮らし家庭, 記事ID:KIJ20170209_01024000101505002
(C)下野新聞社　無断複製転載禁止

終活事典123 ⑤

人脈整理

つながりごとに名簿作成

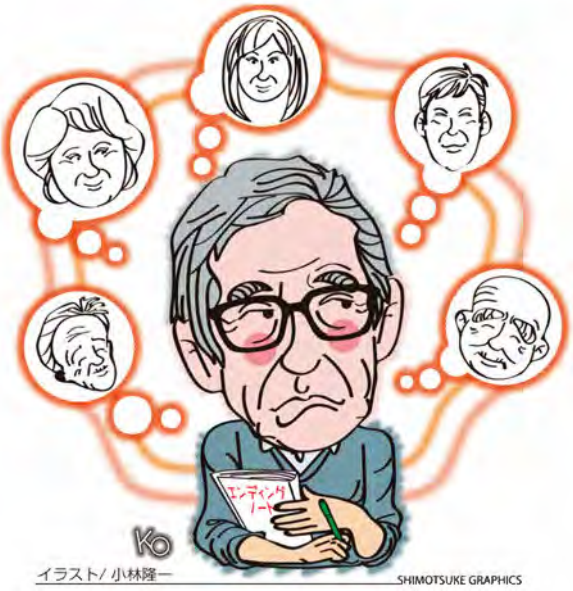
この世に生まれて、人と人とのつながりを持たず、仙人のようにして生きてきたということはあり得ないでしょう。それぞれが、人との関係によって今日まで生かされてきた。人脈はその人の行動半径でもあり、その人の財産といえます。

終活を意識したら、その人脈を整理してみましょう。整理といっても知人・友人を捨てるというわけではありません。

ここでは多くの知人、友人を人脈、つまり学校時代の同級生、子どものPTA、お仕事での関係者、サークル仲間、社会奉仕の団体、親戚の方など、つながりごとに分けてエンディングノートに記載しておくことです。

もちろん名簿をお持ちの方は、エンディングノートに整理された名簿があることを記しておきましょう。名簿をエンディングノートに挟んでおくのもよいです。

人脈の整理で注意したいのは、単に名簿として記載するのではなく、自分とどのような関わりなのかも一言、書いておき、家族が見て分かるようにしておくことです。万一の場合、故人を知る貴重な情報となります。



イラスト/小林隆一

家族の関係が希薄になりつつある現代において、祖父母・父母が亡くなった時に、もっと昔のことを聞いておくべきだったという後悔が残るのが一般的です。

わが祖父母や父母はどのような人とお付き合いがあり、誰によって助けられて今日まで生きてきたのか。そのためにも、自分の人生で転機となった時にお世話になった人、精神的に支えとなった恩人などは子や孫へ伝えておきたいものです。エンディングノートは親から子へ、子から孫へ「想いをつなぐ」ツールでもあります。

（終活アドバイザー・若色信悟）